

研究分野		授業科目名		科目責任者
環境生態系分野		疾病予防分子疫学研究		勝山 博信
開講年次	共通/専攻/選択		単位数	
1~4	必須専攻		20	
目的				
(1) 骨代謝の分子機構を解明して、疾病予防に寄与する。 (2) 骨-多臓器連関を解明して、内分泌器官としての骨の役割を解明する。 (3) 骨芽細胞が産生する miRNA を実験動物に投与して、骨代謝に及ぼす影響を解明する。 (4) 核酸医薬としての臨床応用を目指す。 (5) 開発途上国に赴き、健康増進のために必要な指標を解明する。				
授業到達目標				
(1) 骨芽細胞が産生する miRNA を抽出し、骨代謝における役割を説明できる。 (2) miRNA の全身に及ぼす影響を解析し、骨の内分泌器官としての役割を説明できる。 (3) 開発途上国における体組成率の測定を行う。				
授業計画				
月日	曜日	時間	担当者	授業内容
毎週	金	17:00 - 18:00	勝山 博信	実験内容の確認と次週の予定について
隔週	火	17:00 - 18:00	依田 健志	文献に基づいた研究内容の確認
評価方法				
(1) 1・2年次に中間発表へ出席する。 (2) 2年次に中間発表で発表する。 (3) APRIN e-ラーニングプログラム (eAPRIN) の必須単元を受講する。[受講期間：1年次に受講。] (4) 1週間ごとに実験内容を履修手帳にまとめ、科目責任者の認定印をもらい、学期ごとに提出する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック				
(1) 1週間ごとの実験内容報告に対し、指導・助言を行う。 (2) 中間発表の抄録作成時に、指導・助言を行う。				
教科書				
ISBN-9784780706017, 分子予防環境医学, 分子予防環境医学研究会 (編), 本の泉社, 2010 ISBN-9784315520620, 細胞の分子生物学, Bruce Alberts (著), ニュートンプレス社, 2017				
参考書				
ISBN-9784758120562, 骨ペディア: 骨疾患・骨代謝キーワード事典, 日本骨代謝学会 (編), 羊土社, 2015 ISBN-9784434190803, 新しい骨形態計測, 山本 智章 (編), ウィネット出版, 2014				
準備学習 (予習・復習等)				
(1) 実験計画を周到に準備し、予習を行う。 (2) 毎週、履修手帳に実験計画・内容を簡潔に記載する。 (3) 実験終了後、データの記録と反省点を記録し、提出する。 (実験計画の作成におよそ1時間、データ整理と次回の実験計画におよそ3時間必要)				
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
(1) 課題を探究し、仮説立脚、検証に至るまでの科学的方法を獲得している。 (2) 卓越した研究成果をあげ、疾病予防に関する深い学識を獲得する。				
注意事項・メッセージ				
大学院生として、疑問点を自力で解決できる能力の獲得に取り組んでください。 今回の実験結果が臨床応用可能となることが望まれます。				